

# 学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 基礎医学系講座 環境分子医学分野	氏 名	北村 祐貴
審 査 委 員	主 査 野阪 哲哉 副 査 成田 正明 副 査 溝口 明		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>Plasma protein profiling for potential biomarkers in the early diagnosis of Alzheimer's disease</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>アルツハイマー病 (AD) は認知症の原因として最も多いとされる進行性の疾患である。ADと診断された時には既に認知機能の低下などの症状が進んでいるため、ADを早期段階で診断し、治療を開始することによる進行の抑制が重要である。そこで、本研究では低侵襲で繰り返し採取が可能な血液を指標としたADの早期診断バイオマーカーの開発のために、Functional Assessment Staging (FAST) scaleで分類された軽度AD患者の血液中のタンパク質発現プロファイル解析を行った。軽度AD患者および健常者の血漿中のタンパク質の発現量を蛍光標識二次元ディファレンスゲル電気泳動 (2D-DIGE) 法で解析し、MALDI-TOF/TOF/MSを使用したペプチドマスフィンガープリンティング法によって発現量が変化したタンパク質を同定した。その結果、軽度AD患者において発現量が減少したapolipoprotein A-1、alpha-2-HS-glycoprotein、afaminを同定した。また、発現量が増加したタンパク質としてapolipoprotein A-4、fibrinogen gamma chainを同定した。我々の結果は、これらのタンパク質の発現量の変化がADの早期診断のためのバイオマーカーとして利用できる可能性を示唆した。</p> <p>本論文はアルツハイマー病の早期診断に利用できる血液バイオマーカー候補タンパク質を示した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値のあるものと認めた。</p>			

Neurological Research, Volume 39, 2017, Issue 3, Pages 231-238,

<http://dx.doi.org/10.1080/01616412.2017.1281195>.

Yuki Kitamura, Ryoko Usami, Sahoko Ichihara, Hirotaka Kida, Masayuki Satoh,  
Hidekazu Tomimoto, Mariko Murata, Shinji Oikawa